

講演会 開催報告

ひとりぼっちにしない^{まち}練馬づくり ～わたしたち一人ひとりができること～

「福祉のまちづくり・練馬」では、地域生協、医療生協の組合員、職員がメンバーとなり、それぞれの日常の取り組みの交流を行いながら、練馬区における福祉のまちづくりについて話し合いを重ねてきました。

単身世帯が増え、孤立・無縁社会など、人と人との関係が希薄になりつつある状況の中、孤独死(孤立死)の報道が後を絶ちません。練馬区においても、高齢者が14万人近くとなり(その内3万人が一人暮らし)孤独死は、私たちの地域にも起こりうる問題です。

ひとりでも地域とつながり安心して暮らし続けられるために、今、私たち一人ひとりに出来ることを考えてみようという講演会「一人ぼっちにしない練馬(まち)づくり」を開催しました。

主催：福祉のまちづくり・練馬

「福祉のまちづくり・練馬」では、区内6生協(コープとうきょう・東都生協・生活クラブ生協・パルシステム東京・東京保健生協・すずしろ医療生協)が連携し、安心して暮らせるまちづくりをめざし、地域での人と人とのつながりを大切にしたい取り組みをすすめています。

日時：2012年7月2日(月)

14:00～16:00

会場：ゆめりあホール

参加者：130人



開会挨拶をする
石田さん(コープとうきょう)

「福祉のまちづくり・練馬」では、練馬区の高齢者施策の説明をいただくなど、区や社会福祉協議会と懇談の場を持ちながらすすめてきました。今回は、練馬区でも関心の高いテーマである「高齢者の社会的孤立」の講演と「練馬区の高齢者福祉の現状と課題」の報告をいただけることとなりました。この機会に、皆さまにも、お住まいの地域でどうしたら安心して暮らし続けられるまちが作れるのか一緒に考えていきましょう。



司会の高田さん
(すずしろ医療生協)



講演 「高齢者の生活実態と社会的孤立」

講師：河合 克義氏

明治学院大学社会学部教授、東京都生協連福祉のまちづくり委員、港区政策創造研究所所長

河合先生からは、大都市のひとり暮らし高齢者の問題を考えるには、事実根拠に基づいたことが大切で、どのようなことで困っているのか的確に把握し、制度や政策に生かすことが大切であることなど、港区や横浜市鶴見区などの地域で実施してきた一人暮らしの生活実態調査の結果などから、「高齢者の生活実態と社会的孤立」についてお話をいただき、地域で私たちにできる事を学びました。

◆ひとり暮らし高齢者の社会的孤立に関する調査から

【ひとり暮らしの出現率は…】島嶼部・過疎地域・大都市中心部が高く、2010年、練馬区は全自治体中255位、港区は38位と高い出現率となっている。

【孤立の状況は…】お正月三が日を一人で過ごした人は港区では33.3%、緊急時の支援者「なし」は16.7% 近所づきあい「あまりなし」は37.8%で、中でも前期高齢者男性の孤立が目立つ。

【経済的問題は…】鶴見区での調査では、「やや苦しい」「かなり苦しい」をあわせると29.6%と約3割を占める。

【課題は…】制度を利用しないで孤立し困窮している人、問題を抱えている人などへのアウトリーチが出来ていないことや、買い物に困難になってきている。

◆深刻化する社会的孤立

UR機構の孤立死の定義の見直し(1週間を超えて発見されなかった事故を孤立死という)により、実態が見えにくくなってしまったり、高齢者だけでなく障がい者を抱えた世帯の、餓死や孤立死など社会的孤立問題は深刻化している。その背景の一つには、家族同居率が52.5%(1980年)→23.3%(2005年)と低下しているなど、家族の変化や親族関係が希薄という状況もある。

◆ひとりぼっちにしないまちづくりのために

高齢者問題は介護の問題だけではない。生活上の課題を全体的に把握することが重要で、制度がカバーしているのは一部でしかなく、情報もなく控えめに暮らしている層が多い。声をあげない潜在化してる問題は、住民活動だけでは支えきれない。行政との連携や社会レベルでの仕組づくりが重要。地域には見えない問題はまだまだあるが、どんなことで困っているのか、高齢者に寄り添い、地域生協と医療生協と一緒にまちづくりに取り組むことは重要で、地域づくりをする強みである。高齢者の生命と尊厳を守る視点を持ちこれからどうしていくか、わたしたち一人ひとりができることを考えていきたい。



報告「練馬区の高齢者福祉の現状と課題」

報告者：中田 淳氏 練馬区高齢社会対策課長

中田課長からは、練馬区の現況や今年策定された第5期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成24～26年)について報告していただきました。



◆練馬区の現況

練馬区の人口70万8千人、65歳以上の高齢者人口は13万8千人、高齢化率は19.5%(2011年)。ひとり暮らし高齢者と高齢者のみ世帯をあわせると約7割で、今後も支援を要する高齢者は増え続ける見込みだが、食事の用意ができる・お金の管理が出来るなど、約8割が元気な高齢者である。

◆練馬区が取り組む8つの施策

高齢者を取り巻く様々な課題に的確に対応し、高齢者が安全・安心でいきいきと暮らせる社会を実現するために、練馬区で取り組むべき計画を策定した。必要な方に必要なサービスを提供できるように地域包括ケアシステムの実現を目指し、以下の8つの施策に取り組む。

- (1) 高齢者相談センターを中心とする相談支援体制を充実します
- (2) 特別養護老人ホームや地域密着型サービス拠点の整備を促進します
- (3) 介護・医療サービスが連携して提供される体制づくりに取り組みます
- (4) 身近な地域での自主的な介護予防の取り組みを支援します
- (5) 住み慣れた地域に暮らし続けられる住まいづくりを進めます
- (6) ひとり暮らし、高齢者のみ世帯の方などへの生活支援や見守りサービスを充実します
- (7) 認知症高齢者や介護家族が安心して暮らせる地域づくりを進めます
- (8) 高齢者の地域での社会参加の場・機会づくりに取り組みます

◆参加者アンケートより(48枚提出)

◇講演「高齢者の生活実態調査と社会的孤立」を聞いて

- ・介護保険制度を使用しない人々に手を差し伸べる事が一番大事だと思った。
- ・「高齢者問題は介護問題だけではない。地域で潜在している問題を掘り起こし対策を考えるべき」というお話は、本当に大事なことだと思った。
- ・調査内容とデータに基づきわかりやすいお話だった。表面に出ない数や問題を見つけることの重要性和住民・生協ができる事を考える機会となった。

◇報告「練馬区の高齢者福祉の現状と課題」を聞いて

- ・練馬区が取り組む8つの施策が、地域の中でうまく機能するようにと期待する。
- ・要介護高齢者の在宅生活を支えるための24時間対応の定期巡回・随時対応サービスの人材確保等は大丈夫ですか？
- ・転倒予防体操や口腔機能改善の機会を多く開設することが急がれると感じた。



閉会挨拶をする
吉田さん(東京保健生協)

高齢者の見守りをはじめ、地域コミュニティーの確立に努力していくことを実感した。自殺者は年間3万人以上、孤立死はそれを上回る報道がある。社会的援助を必要としている人が声を発しないで孤立に結びつく人がたくさんいる。経済大国でこのようなことがあってよいのでしょうか？孤立死は人間の尊厳を損なう重要な問題。協同組合としてできることを考えて人と人が助けあって共に頑張っていくことが大事である。地域のいろいろなニーズにこたえ、取り組みをすることの重要性を実感した。今日の講演会はその一步を踏み出す大事な1ページとして大きな成果となった。

